

科目名	言語発達障害学Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位
				必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 後期
【授業の目的・ねらい】 言語発達障害の特性に応じた評価・指導・訓練のあり方、関わり方について理解できる。 発達段階や特性に合わせた指導について、基本的知識を身につける。							
【実務者経験】 言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどで発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 グループセラピーのフィードバックや指導計画の立案・修正・準備等を行い、言語発達障害児に対するアプローチ方法を理解する							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語発達障害児への、言語聴覚士としての関わり方・対応などの詳細について理解することができる							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	子どもと関わる上で必要な礼節・身だしなみ・言葉遣い・心遣いを知る						言語発達障害学 第3版
2	グループセラピーを行ううえで必要な準備・知識の整理を行うことができる①						PPスライド資料
3	グループセラピーを行ううえで必要な準備・知識の整理を行うことができる②						言語発達障害学 第3版
4	グループセラピー計画立案・修正を行える①						
5	グループセラピー計画立案・修正を行える②						
6	グループセラピー【1】フィードバック						
7	グループセラピー計画立案・修正を行える③						
8	グループセラピー【2】フィードバック、グループセラピー計画立案・修正を行える④						
9	グループセラピー【3】フィードバック						
10	グループセラピー計画立案・修正を行える⑤						
11	グループセラピー【4】フィードバック、グループセラピー計画立案・修正を行える⑥						
12	グループセラピー【5】フィードバック、グループセラピー計画立案・修正を行える⑦						
13	グループセラピー【6】フィードバック						
14	グループセラピー計画立案・修正を行える⑧						
15	グループセラピー計画立案・修正を行える⑨						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版							
【準備学習・時間外学習】 グループセラピーに必要な教材の作成を行って下さい。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 筆記試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							